

福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 28 日
東京電力株式会社

< タービン建屋地下のたまり水の処理 >

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

・12/27 10:37 第二セシウム吸着装置を起動。10:43 定常流量に到達。

これまでの本資料にて、「12/27 10:37～ 第二セシウム吸着装置を起動し、たまり水の処理を再開。」と記載しておりましたが、正しくは上記のとおりです。訂正し、お詫びいたします。

[貯蔵設備]

・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋、 雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・12/28 15:22～ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋、 雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・12/28 15:32～ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・12/28 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (12/28 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,228 mm(水位上昇累計:3,445 mm) 12/27 7:00 から 75 mm 上昇
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 3,200 mm(水位上昇累計:3,926 mm) 12/27 7:00 から 718 mm 下降

[その他移送]・12/27 10:14～15:18 集中廃棄物処理施設においてサイトバンカ建屋からプロセス主建屋へ移送実施。

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/28 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (12/27 7:00 と同じ)	O.P.+ 2,836 mm (12/27 7:00 から 22 mm 上昇)	O.P.+ 4,243 mm (12/27 7:00 から 1 mm 下降)
2号機	O.P.+ 3,236 mm (12/27 7:00 から 52 mm 上昇)	O.P.+ 3,209 mm (12/27 7:00 から 48 mm 上昇)	O.P.+ 3,331 mm (12/27 7:00 から 40 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,188 mm (12/27 7:00 から 19 mm 上昇)	O.P.+ 3,158 mm (12/27 7:00 から 22 mm 上昇)	O.P.+ 3,411 mm (12/27 7:00 から 24 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 3,126 mm (12/27 7:00 から 2 mm 上昇)	O.P.+ 3,148 mm (12/27 7:00 から 14 mm 上昇)

< 放射性物質のモニタリング >

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	12/27	8:35	ND	0.05	0.04
福島第一 1～4号機放水口南側約 330m	12/27	8:10	ND	0.03	0.02

・その他、福島第一原子力発電所沿岸 2 地点(12/27 採取分)、福島県沖合 4 地点(12/26 採取分)における主要 3 核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全て ND。

< 使用済燃料プールの冷却 > (12/28 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.0
2号機	循環冷却システム	運転中	14.0
3号機	循環冷却システム	運転中	12.4
4号機	循環冷却システム	運転中	20

【4号機】・11/29～ 使用済燃料プールの塩分除去のため、イオン交換装置の運転を開始。
 ・12/28 13:28～15:07 使用済燃料プールへのヒドラジン注入を実施(約2 m³)。

< 原子炉压力容器への注水・原子炉の状況 > (12/28 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.3 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約2.0 m ³ /h)	27.3	27.8	106.8 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約1.8 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約7.0 m ³ /h)	54.7	58.1	108 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約3.0 m ³ /h, 炉心スプレイ系:約5.9 m ³ /h)	49.1	58.4	101.6 kPaabs

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

< その他 >

- ・10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・12/28 9:00～10:00 12/22 より温度計指示値の上昇が見られていた1号機原子炉格納容器雰囲気温度の1点について、計器の健全性等の確認を実施し、問題がないことを確認。なお、他の原子炉格納容器雰囲気温度の指示値に上昇は見られていない。 12/22 時点:約38、12/27 19:00 時点:約49
- 11:00～12:15 12/22 以前の状態に戻して状況を監視するため、原子炉格納容器への窒素封入量を約8 m³/h から約18 m³/h、格納容器ガス管理システムからの排気量を約23 m³/h から約30 m³/h へそれぞれ調整。
- ・12/28 2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値(1.1 × 10⁻¹ Bq/cm³)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/ccを下回っていることを確認。

以上